

法事のいろいろ

【中陰法要】

亡くなって四十九日間を中陰と呼び、七日ごとに計七回の法要を営みます。

七日目に初七日法要。(葬儀の日に、火葬後、精進上げと同時に営むも可)

十四日目に二七日(ふたなぬか)法要。

二七日から六七日(むなのか)にかけての七日ごとの法要は、自宅に住職を迎え読経してもらいますが、内輪だけで営むのが一般的です。

七回目の四十九日法要をもって喪が明けるとされています。

四十九日の法要には、親戚、近親者、親しかった友人などを招きます。

また、この日に納骨埋葬を兼ねることが一般的です。

【百か日】

住職を迎え読経してもらいます。内輪(家族)だけで済ませますが、省略される場合も多いようです。

【初盆】

新盆供養とも呼ばれます。

四十九日に達していなければ翌年の盆が初盆になります。

親戚を初め、親しかった人や仕事関係の方などをお招きしますが、詳細については事前にお寺さんに相談しておくようにします。

【一周忌】

翌年の命日に当たる日に、四十九日法要と同じように営みます。

【三回忌】

三年目ではなく二年目(翌々年)の命日に、四十九日や一周忌よりも控えめな規模で行います。

【七回忌, 十三回忌, 十七回忌】

それぞれ、六年目, 十二年目, 十六年目に営みます。

【二十三回忌, 二十五回忌, 二十七回忌】

二十二年目, 二十四年目, 二十六年目のうち、どれかで1回だけ営みます。

【三十三回忌】

地方によっては三十三回忌をもって法要行事の完了とするところもあります。

【五十回忌】

一般的にはこれをもって最後の法要とします。

【月日法要】

毎月、亡くなった日と同じ日に住職を迎えて読経してもらいます。

お寺さんは、同じ宗旨であれば近くのお寺さんをお願いしても差し支えありません。

【祥月命日】

毎年の命日です。

年に一度の法要ですから、仏壇に個人の好物などをお供えし、できれば住職を招いてお経を上げてもらいます。

<お寺さんに対する謝礼には次のようなものがあります。>

【法要お布施】

地域や家庭の事情、法要の規模、お寺の格式などにより金額はさまざまですが、下記のいずれの場合も、一般的には2万～5万円程度と考えておけばよいでしょう。

【更衣（ころもがえ）料】

法事のたびに更衣といって「晒（さらし）」を一反お供えすることもあります。現金で済ませる場合は数千円包む程度でよいでしょう。

【塔婆料】

浄土真宗は塔婆を立てませんが、それ以外の宗旨では法要のたびに塔婆を立てます。

塔婆は五輪塔に模した細長い板で、故人への供養のしるしとしてお供えするものですが、法要が終わればお墓の後ろに立てておきます。

塔婆料は一本いくらと大体決まっていますから、お寺さんに値段を聞いても失礼になりません。

【御膳料】

都合により住職がお齋（おとき）の席につけない場合や、会食そのものを省略する際には、料理を箱詰めにするか、御膳料、又は御齋料をお包みします。

【御車料】

住職に遠方から来ていただく場合にお包みする交通費です。

もちろん、お寺を借りて法事を営む場合は不要です。

【会場費】

お寺で法要を営んだ場合の使用料です。ほかの費用とは異なりますから、事前にお寺さんに確認しておく必要があります。